



おもすの森

発行
大本山 本門寺根源
山務所
富士宮市北山4965
電話 0544-58-1004

日蓮大聖人

御 聖 訓

法華経を信ずる人は冬のごとし、
冬は必ず春となる。いまだ昔よりき
かず、みず、冬の秋とかへれる事を。
いまだきかず、法華経を信ずる人の
凡夫となる事を。

『妙一尼御前御返事』

この御遺文は、建治元年（一二七五）五月、妙一尼（生没年不詳）が身延山の日蓮大聖人へ衣類を供養したことに対する礼状です。真蹟六紙が千葉県の中山法華経寺に完存しています。

当時、妙一尼は夫を亡くし悲しみの渦中になりました。しかも妙一尼と「病子」「女子」を残して逝つてしまつたのです。

法華経を信ずる人は冬のごとし

日蓮大聖人は、亡夫は法華経の故に命を捨てたのであるから成仏は疑いなく、また常に妻子を見守つてくれるであろうと述べられています。

しかも、妙一尼が健在ならば結構であるが、もし方が一の時は幼い子供達は私が見守ろうとの言葉をかけられています。

このような趣旨の御手紙の中で冒頭に掲げた一節が綴られるのです。

皆さんの中にも近親者を亡くして悲しみの日々を過ごしている方もいらっしゃることでしょう。この世の無常に感涙を禁じ得ません。私達はおたがいに「冬は必ず春となる」と励まし合つて仏道修行に励んで参りましょう。

日蓮大聖人は、亡夫は法華経の故に命を捨てたのであるから成仏は疑いなく、また常に妻子を見守つてくれるであろうと述べられています。

日時 令和七年七月十九日（土）
場所 本門寺根源 本堂
疫病退散のいわれのある靈験あらたかな御大事御本尊を御開帳し、檜祓い（しきみはらい）にて皆様の身体健康・無病息災を御祈念致します。年に一度の奉奠ですので、お誘い合せの上ご参詣下さい。



「身代り守り」 頒布

御大事御本尊御守

御靈宝疫病退散の御大事御本尊を複写し、身代わり守りとして特別に頒布しております。

皆様の菩提寺である末寺寺院が窓口でございますが、郵送でも承っておりますので、要望の方は連絡ください。電話〇五四四一五八一一〇〇四

御靈宝御風入会

四月十三日(日)午前十一時より、年中行事である御靈宝御風入会を奉修致しました。日曜ということもあり、当日は大勢の参拝者で本堂内を埋め尽くしました。

今年は、日興上人御所持念珠・扇子及び本年修復が完了した井出志摩守手形二通(修復施主三島市伊豆国分寺様・富士宮市本光寺様)、第十三世日延上人覚書一通(修復施主富士市妙善寺様)、埼玉県本法寺様からは、日興上人御本尊・特別奉奠として本年十七回忌に当たる四十八世日諄上人御本尊・御寶藏棟札・宇佐美市仏教会より寄贈された一切経等、十四点が、奉奠されました。

旭日重貌下の御名代として鈴木執事長より、本願人輪袈裟と証書が授与され、感謝の意を述べられました。



法縁総会

法縁総会当日、國本隆氏(大阪府)へ本山護持丹精の功德を讃え本願人顕彰が行われました。

四月二十九日(火)午前十時より垂迹堂に於いて、鈴木執事長を御導師に本化垂迹天照太神祭を奉修致しました。当日は春らしい清々しい天候の下、重須孝行太鼓保存会による力強い太鼓の演奏が奉納されました。当日は重須婦人会・檀信徒の皆様と御唱えした御題目が太鼓の音と共に重須の森に響きました。



役員総会

五月二十四日、本山役員総会が方丈にて行われました。本年度より司判並びに大世話人の方々にお集まりいただいての会議となりました。鈴木執事長より令和六年度会計報告・遠忌事業の進捗状況・本山近況報告などが報告されました。更に本山墓地の現状問題が報告され、墓地管理者として今後の方針案が説明されました。

令和7年7月
長より説明があり、参列の皆様は興味深く耳を傾け、その後拝観されま

本願人顕彰



本化垂迹天照太神祭

四月二十九日(火)午前十時より垂迹堂に於いて、鈴木執事長を御導師に本化垂迹天照太神祭を奉修致しました。当日は春らしい清々しい天候の下、重須孝行太鼓保存会による力強い太鼓の演奏が奉納されました。当日は重須婦人会・檀信徒の皆様と御唱えした御題目が太鼓の音と共に重須の森に響きました。

門寺本堂・開山堂の修繕が本年夏より着手されますが参拝が出来ますので是非お参り下さいとご挨拶されました。



当山格護御大事御本尊とは

表紙でもご案内の御大事御本尊会。今年は七月十九日に奉修されます。毎年夏季土用丑の日に特別に奉奠される御大事御本尊について解説致します。

日蓮大聖人が佐渡流罪より御赦免になり、鎌倉へと向かわれる途中、越後の御堂筋の村にさしかかりますと、白髪の老翁が大聖人の御前に現われました。

この村では疫病が流行つており、病魔退散の御祈祷と御守りを受け賜りたいと願い出られました。大聖人は、懷中より御守りの御本尊を授け、その靈験あらたかな御大事御本尊により疫病は退散したと伝えられております。

鎌倉時代と令和の今日、時の隔たりはありますが、コロナ禍(疫病)が社会を揺るがし、人々の心を蝕んでいる事には変わりありません。以前の生活環境を取り戻すには時間を要します。是非、心の平穀を取り戻す為に当山に御参拝頂き、大聖人の御心に触れ、年に一度の暑払い・疫病退散の御祓祓いをお受けください。

尚、この御大事御本尊を板守りとして授与しますのでご希望の方は、当日お求めください。



小泉久遠寺晋山式

四月二十日、本山久遠寺（富士宮市小泉）において第六十六世安藝日旺上人の晋山式が厳修されました。開式に先立ち、日蓮宗田中恵紳宗務総長御名代として、静岡県中部宗務所塚本智秀所長より辞令伝達が行なわれ、久遠寺第六十四世旭日重貌下の下、嚴粛に行われました。

から安藝上人へ、法燈が繼承されました。式衆に本門寺末寺各聖の出仕の下、嚴粛に行われました。

御宝前において奉告文を読み上げる中、安藝上人は師匠への感謝の念が溢れ、涙がとまらぬ場面もありました。

ご挨拶の中で安藝新貫首は「山形で五十年住職として培つた経験を糧に、小泉の地で檀信徒の皆様に寄り添い、お題目の布教に励んでいく」と挨拶をされました。

その後、富士市のホテルに場所を移し、祝宴が開かれました。

法縁を代表し、堀江禎正副会長（島根県法藏寺）より法縁の為に、遺憾なく手腕を發揮し御尽力をお願いしますと挨拶されました。

結びに、小泉久遠寺田中日芳参与（伊豆寶成寺）より経過説明と謝辞が述べられ、安藝猊下よりご挨拶があり、式を納めました。



安藝日旺猊下



京都要法寺の本堂

（京都市）様にて第五十三祖岩崎日求上人の晋山式が執り行われました。当山からは鈴木執事長が参列されこの慶事を御祝されました。同日は日尊上人の御命日忌でもあり併せて日尊上人第六八一年御報恩法要が新貫首岩崎上人により御回向されました。

要法寺様は日興上人の弟子である日尊上人御開山の由緒ある本山です。日尊上人といえども日興上人の講義中、風に散つていく梨の葉に気をとられ勘当された後、京都を中心に全国で布教活動され十二年間で三十六力寺を建立されました。御会式には欠かさず本門寺に登山し腰掛石にお座りになり、生御影尊にお参りされました。その後、死身弘法の功績により勘当を解かれ、日興上人の弟子として認められました。この本門寺にとつてもに大変縁の深い寺院であり、我々教師も襟を正すところです。



岩崎日求猊下

誠に有難うございました。 合掌

京都要法寺晋山式

岩崎猊下晋山報告来山

五月二十一日 日蓮本宗本山要法寺岩崎日求猊下・西尾執事長・随行三名の方が晋山の御報告の為、御来山されました。

一行は生御影尊に渴仰拝礼され、引き続き日興上人御正廟において要法寺晋山第五十三祖として晋山された事を御報告されました。



御生御影にご挨拶される岩崎猊下

『本門要軌』を読む
連載終了のご挨拶 阿部和正

おもすの森、第一三三号より第一六五号までの約三年間にわたりまして、『本門要軌』を読むを本誌に連載させて頂きましたが、諸般の事情によりまして、当連載を前号をもちまして一旦終了とさせていただく運びとなりました。皆様方には連載中、温かいご支援ご指導を賜りました。皆様方には連載心より御礼を申し上げます。『本門要軌』は日蓮宗の宗旨であります「三大秘法」に即した法要儀軌であります。南無妙法蓮華經の五字七字に帰結する様に構成されております。またいざれで共に学ぶ機会がありますことを願います。



第11回 清掃奉仕のお願い

7月18日(金) 午前9時～10時30分(雨天翌週25日)

今回の清掃奉仕は、8月のお盆を迎える為の道場莊嚴であります。清掃奉仕によって共に汗を流し、自分自身の心の垢も一緒に流しましょう。そして、清らかな気持ちで仏様をお迎え致しましょう。

=持ち物=

清掃用具・草刈り機・ブロワーをお持ちの方はご持参ください。
燃料は本山で用意致します。

法華経に学ぶ 第三十二回

布教伝道部 浦野 弘正

摩睺羅伽・小王・転輪聖王

前回は「摩睺羅伽」「小王」「転輪聖王」という方々も、法華経の会座にいらっしゃるところまでお話ししました。この方も、このあと何度も登場しますのでご紹介します。

最初の「摩睺羅伽」は「Mahoraga マホーラガ」の音写で、大いなる腹這うもの、大うわばみという意味の神さまです。天龍八部衆に数えられていて、大蛇の神さま・蛇神だと考えられています。後半の章では何度も登場します。

次の「小王」は様々な王様です。お経に登場する王様は、村の酋長さんや村長さんを指した言葉だつたようです。そしてその中で王様の理想とされるのが「転輪聖王」さまで、「天から頂いた宝輪を廻すことによつて四方を征服し、統治する王様」とされます。

教えが説くことを「法輪を転ずる」ともい

い、最初のお説法を「初転法輪」といいますが、同様に、転輪聖王さまは仏さまに限りなく近いお姿で、武力にも脅迫にもよらず、正義を力として国を治めるといわれます。この「正義」を表しているのが「宝輪」で、これが「法輪」に通ずると考えれば、法輪＝法華經と置き換えることができ、「法華経を以て国を治めることが理想」であることを表す王

名称	よみ	特徴
1 尼下安平相	そっかあんびょうそう	足の裏が平らで、地を歩くとき足裏と地と密着する。
2 尼下二輪相	そっかにりんそう	足の裏に輪形の織輪がある。
3 長指相	ちょうしそう	手足の指が長くて纖細である。
4 足跟広平相	そっこんこうびょうそう	足のかかとが広く平らである。
5 手足指緩綱相	しゅそくしまんもうそう	手足の各指の間に水かきのような全色の膜がある。
6 手足柔軟相	しゅそくにゅうなんそう	手足が柔らかで、色が紅赤をしている。
7 手足高満相	そくふこうまんそう	足趺すなわち足の甲が厚い。
8 伊泥延勝相	いでえんばくそう	鹿の王である伊泥延（いでえん）のようなふくらはぎをしている。
9 正立手摩膝相	しょうりゅうしゅましちそう	直立したとき両手が膝に届く。
10 藏蔵相	おんぞうそう	馬のように陰相が隠されている。
11 身広長等相	しんこうちょうとうそう	身長と両手を広げた長さが等しい。
12 毛上向相	もうじょうこうそう	体の全ての毛の先端が全て上になびき緑青色をしている。
一一孔一毛生	いちいちくいちもうしょうそ	身体の全ての毛穴に一毛を生じて毛孔から微妙の香氣を出し青瑠璃色である。
13 相	う	
14 金色相	こんじきそう	身体手足全て黄金色に輝いている。
15 文光相	じょうこうそう	身体から四方にそれぞれ一丈の光明を放っている。
16 細薄皮相	さいはくひそう	皮膚が軟滑で一切の塵や垢などの不淨を留めず、清らかに保たれて
17 七處隆満相	しちしょりゅうまんそう	両掌と両足の裏、両肩、うなじの合計七ヶ所の肉が円満である。
18 両腋下隆満相	りょうあくせきげりゅうまんそう	両腋の下にも内が付くほんでない。
19 上身如師子相	じょうしんにょししそう	上半身に獅子王のような威厳がある。
20 大直身相	だいじきしんそう	身体は広大で端正である。
21 肩円好相	けんえんこうそう	両肩の相が丸く豊かである。
22 四十齒相	じゅうしゅうしそう	40本の歯を有し清潔である。
23 歯齊相	しせいそう	歯はみな大きさが等しく美しい。
24 牙白相	げびやくそう	とくに白く大きな四牙がある。
25 師子頬相	ししきょうそう	両頬が獅子王のようである。
26 味中得上味相	みちゅうとうくじょうみそう	何を食べても食物の最上として味わえる。
27 大舌相	だいぜっそう	舌が広く長い。
28 梵声相	ぼんじょうそう	声は清淨で遠くまで聞える。梵音声（ぼんのんじょう）とも呼ばれる。
29 真青眼相	しんしょうげんそう	紺青色の眼をしている。
30 牛眼睫相	ごげんじょうそう	睫（まつげ）が牛王のように長く整っている。
31 頂髻相	ちょうけいそう	頭のてっぺんが隆起して髪（もどり、まげ）の形を成している。
32 眉間白毫相	みけんびゃくごうそう	眉間に右周りの白毛があり、光明を放つ。

様、と考えることもできます。日蓮大聖人も「法華経の精神で政治が行われることを願い」、当時の執權・北条時頼に対しても『立正安國論』を提出されています。

また、三十二相と重複する特徴もあります。お釈迦様は「仏さま」ですから、普通の人と姿が違います。仏さまにしか三十二の優れた身体的特徴を「三十二相」といい、眉間白毫相はその中の一つです。

が、細かい特徴を挙げると八十あるので「八十種好」ともいいます。御経文の中では「三十二相 八十種好」と、両方を合わせて仏さまを表しています。八十種好は列举できませんが、三十二相の一覧が右の表です。

が、細かい特徴を挙げると八十あるので「八十種好」ともいいます。御経文の中では「三十二相 八十種好」と、両方を合わせて仏さまを表しています。八十種好は列举できませんが、三十二相の一覧が右の表です。

眉間白毫相は、その三十二相の一つで、仏さまの眉間にあつて、眉毛とは違う白い毛が

眉間白毫相と仏の三十二相・八十種好

右巻きになつた塊をいいます。（続く）

盂蘭盆

お盆について



Q1 お盆には、どういう由来があるのでしょ
うか？

A1 お盆は、お彼岸と並ぶ先祖供養の法会
です。もともと、ブッダの弟子目蓮尊者が、餓
鬼道に墮ちた母親の苦しみを救つた由来を
説いた「仏説盂蘭盆經」の経説に拠つて始め
られました。日本では、伝わってきた仏教思
想と伝統的な宗教儀礼
が結びつき、現在のお盆の
習慣が出来たと考えら
れます。

Q2 お盆の時期は、何をしたらいいのでしょうか？

A2 お盆を迎えるにあたっては、仏壇やお墓
を清掃し、仏壇前に精霊棚をつくります。ま
た迎え火を焚き、「先祖様をお迎えします。
簡単に内容を案内しますと、私達が法
華經を信じ、お盆の時期に「先祖様を供
養することで、私達の父母も祖父母も、ひいて
さらには子や孫、七代先の子孫までも仏にな
る」ことができると言かれています。
お盆について、Q & Aでおさらいしてみましょ
う。

Q3 我が家では茄子を刻んだものを蓮の葉
にのせているのですが、これにも意味はあるので
すか？

A3 それは「水の子」（水の実）といって餓鬼に
対する施しの意味があります。また水を入れ
た器に、みそはぎ等の枝を添えておくのは、餓
鬼に対する灑水供養のためです。精霊棚の隅
やそれより一段低く棚を設けて種々の飲食
を供えることを「無縁棚」といいますが、これ
は「あまねく一切に及ぼす」という法華經の
思想にそつた供養の仕方です。

参考 日蓮宗ホームページ



概要 日時 令和7年8月16日(土) 9:00集合
令和7年8月17日(日) 12:00解散
会場 法華本門寺根源
対象 小学3年生～中学3年生
(申込締切8/10まで
定員30名になり次第受付終了)
【お問い合わせ】
法華本門寺根源
静岡県富士宮市北山4965
TEL 0544-58-1004

参加費 2,000円
(保険料含む)

【目的・内容】
お寺で楽しく五心を養う体験道場です。各地
で活躍する重須孝行太鼓の皆様と交流したり、数珠作
り体験、流しそうめん、他にも楽しい催しを用意して
いますのでどうぞご参加下さい。
五心とは、一、「すみません」という反省の心
二、「おかげさま」という謙虚な心
三、「はい」という素直な心
四、「ありがとうございます」という奉仕の心
五、「ありがとうございます」という感謝の心

昨年に続きまして、少年少女の心身健全を図る為の
「おもす道場」を開校致します。本年も一泊二日の日
程で、日頃体験出来ないお寺での生活を夏休みの思い
出として頂きたいと考えております。子供孫達に呼び
掛けて頂き、ご参加をお待ち致します。

参加希望の方は、同封のチラシ申込書にご記入の上、
本山迄お持ちください。

「おもす道場」開校 八月十六～十七日

